

令和6年度千葉県海岸漂着物組成調査の概要

1 調査目的

千葉県の海岸において、長期的かつ継続的に海岸漂着物の組成や存在量を把握し、さらに、それらの経年変化を把握する。

2 調査方法

調査は環境省「地方公共団体向け漂着ごみ組成調査ガイドライン（令和5年6月第3版）」に基づき行い、富津市布引海岸（R6. 11. 12）、旭市九十九里海岸・中谷里（R6. 11. 19）で実施した。

3 調査結果 ※ 数値を四捨五入しているため、組成比の各項目の合計が100%にならない場合がある。

（1）大分類別（材質別）の組成等

布引海岸は九十九里海岸・中谷里と比べて、重量でおよそ42.7倍（個数比2.5倍、容積比19.6倍）の漂着物が確認された。

漂着物の組成を重量ベースで見ると、布引海岸では自然物が、九十九里海岸・中谷里では人工物が多くを占め、人工物に限定すると布引海岸では木（木材等）が、九十九里海岸・中谷里ではプラスチックが大半を占めた。

分類名	布引海岸（富津市）			九十九里海岸・中谷里（旭市）		
	重量/kg	組成比	（参考） 自然物を除いた組成比	重量/kg	組成比	（参考） 自然物を除いた組成比
プラスチック	5.87	0.8%	13.5%	7.44	42.9%	74.8%
発泡スチロール	0.04	0.0%	0.1%	0.06	0.3%	0.6%
ゴム	0.52	0.1%	1.2%	0	0.0%	0.0%
ガラス、陶器	0.04	0.0%	0.1%	0	0.0%	0.0%
金属	0.31	0.0%	0.7%	1.11	6.4%	11.2%
紙、ダンボール	0.1	0.0%	0.2%	0.61	3.5%	6.1%
天然繊維、革	0	0.0%	0.0%	0.09	0.5%	0.9%
木（木材等）	36.66	5.0%	84.2%	0.63	3.6%	6.3%
電化製品、電子機器	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
その他	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	0.0%
自然物	696.54	94.1%	—	7.4	42.7%	—
合計	740.08	100.0%	100.0%	17.34	100.0%	100.0%

図1 大分類別の集計結果（重量）

※報告書では、個数、容積についても集計。

（2）国別組成比

両海岸ともに文字が読み取れない「不明」が多く、海外製と考えられる漂着物はあまりみられなかったが、そのほかでは中国・台湾、英語、韓国表記と推定される漂着物が少量確認された。

表記言語	布引海岸（富津市）						九十九里海岸・中谷里（旭市）					
	ペットボトル		ペットボトルのキャップ		漁業用の浮子		ペットボトル		ペットボトルのキャップ		漁業用の浮子	
	個数	組成比	個数	組成比	個数	組成比	個数	組成比	個数	組成比	個数	組成比
日本（漢字、ひらがな、カタカナ）	1	50%	6	33%	0	0%	6	23%	2	50%	0	0%
中国・台湾（漢字）	0	0%	1	6%	0	0%	1	4%	0	0%	2	100%
韓国（ハングル）	0	0%	0	0%	0	0%	2	8%	0	0%	0	0%
英語	0	0%	0	0%	0	0%	1	4%	1	25%	0	0%
不明	1	50%	11	61%	1	100%	16	61%	1	25%	0	0%
合計	2	100%	18	100%	1	100%	26	100%	4	100%	2	100%

図2 国別組成比

（３）プラスチックごみの組成

プラスチック及び発泡スチロールに分類された漂着物の組成比及び上位品目は以下のとおり。両海岸ともに容器包装が多数見られた。

プラ分類	布引海岸（富津市）		九十九里海岸・中谷里（旭市）	
	個数	組成比	個数	組成比
容器包装	84	41.0%	78	57.8%
海域由来	58	28.3%	39	28.9%
製品	53	25.9%	17	12.6%
その他	10	4.9%	1	0.7%
合計	205	100.0%	135	100.0%

図３ プラスチックごみの組成比

	布引海岸（富津市）			九十九里海岸・中谷里（旭市）		
	プラスチックごみの種類	個数	プラ分類	プラスチックごみの種類	個数	プラ分類
1	ボトルのキャップ、ふた	38	容器包装	ロープ、ひも（漁具）	31	海域由来
2	ロープ、ひも（漁具）	36	海域由来	食品の容器包装	23	容器包装
3	食品の容器包装	28	容器包装	飲料用（ペットボトル）＜1L	21	容器包装
4	ストロー	27	製品	食品容器	18	容器包装
5	生活雑貨（歯ブラシ等）	18	製品	ストロー	11	製品

図４ プラスチックごみの上位５品目

※報告書では、重量についても集計。

（４）過年度との比較

令和６年度の調査結果を令和２年度～令和５年度と比べると、布引海岸では、重量ベースで令和５年度より著しく増加しており、木（木材等）が顕著に増加した。また、九十九里海岸・中谷里では、重量ベースで令和５年度より減少しており、木（木材等）が顕著に減少した。なお、過年度に引き続きプラスチックが過半数を占めた。

変化の原因等については、引き続き、継続的な調査による検討が必要と考えられる。

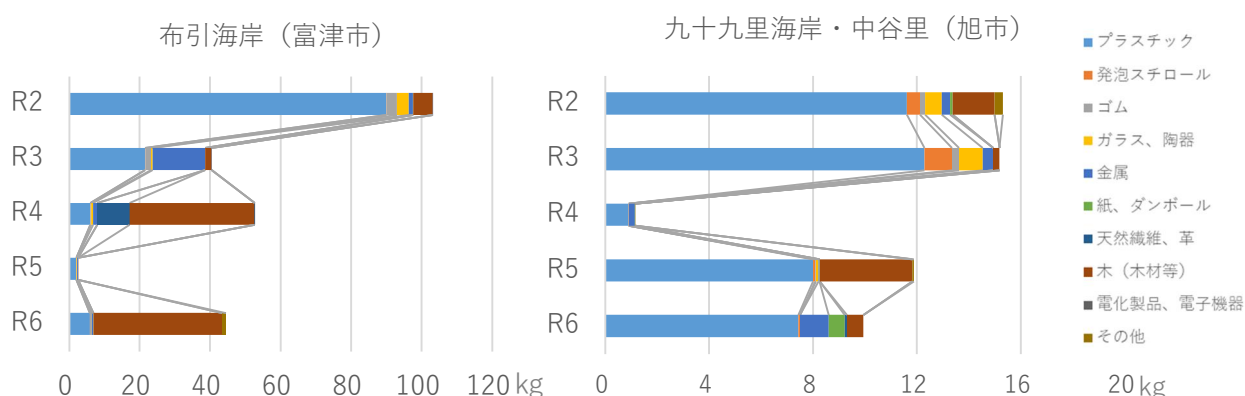


図５ 令和２～６年度調査における自然物を除く漂着物の集計結果（重量）

※報告書では、個数、容積についても集計。

本資料（概要）は報告書の一部を抜粋・編集したものであり、詳細については報告書を参照のこと。